高知自動車道

高知自動車道は愛媛県四国中央市の川之江 JCT から高知県四万十市の四万十 IC に至る高速道路で、四国横断自動車道の一部にあたります。高知自動車道のうち、川之江 JCT～須崎東 IC 間及び須崎西 IC～四万十町中央 IC 間は高速自動国道であり、須崎東 IC～須崎西 IC 間及び四万十町中央 IC～四万十 IC 間は高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路として整備されています。以下、区間別に整備の概要を記します。

四国横断自動車道が国土開発幹線自動車道の予定路線となったのは昭和 41 年 7 月でしたが、最初に施行命令が出されたのは大豊～南国間の昭和 48 年 10 月でした。この区間は急峻な山岳地帯を通るため、トンネルが 8 本、橋梁が 19 本で、本線延長のうち 57%が構造物となっています。大豊 IC～南国 IC 間 21.0km は昭和 62 年 10 月に開通しました。

次いで川之江～大豊間の施行命令は昭和 53 年 11 月でした。四国山地を貫くこの区間ではトンネルが 11 本、橋梁が 37 本で、構造物の延長比率は 72%となっています。川之江 JCT～大豊 IC 間 29.1km の開通は平成 4 年 1 月でした。この開通により、高知県は瀬戸内経済圏と直結し、さらに平成 4 年 4 月の高松自動車道高松～善通寺間の開通により、高知県は瀬戸大橋を経由して本州と高速道路で結ばれることになりました。

南国～伊野間に施行命令が出されたのは昭和 63 年 3 月でした。南国 IC～伊野 IC 間 17.9km は平成 10 年 3 月に開通し、これにより高知市に高速道路がつながり、四国四県の県庁所在地すべてに高速道路が直接乗入れることになりました。

伊野～須崎東間の施行命令は平成 2 年 12 月でした。伊野 IC～須崎東 IC 間 23.9km の開通は平成 14 年 9 月で、高知自動車道の延伸により、地域間の連携が強化されるとともに、同月開催された「よさこい高知国体」の県内各会場へのアクセスを支援しました。

平成 15 年 12 月には須崎新荘～窪川間が新直轄区間に指定され、平成 23 年 3 月までに須崎道路（須崎東 IC～須崎西 IC 間 5.1km）及び須崎西 IC～中土佐 IC 間 7.0km が開通し、平成 24 年 12 月には中土佐 IC～四万十町中央 IC 間 14.8km が開通しました。

四万十町中央 IC 以西では、片坂バイパス（四万十町西 IC～黒潮拳ノ川 IC 間 6.1km）が平成 30 年 11 月に開通しましたが、窪川佐賀道路（四万十町中央 IC～四万十町西 IC 間 5.0km 及び黒潮拳ノ川 IC～黒潮佐賀 IC 間 6.2km）、佐賀大方道路（黒潮佐賀 IC～黒潮大方 IC 間 14.0km）、大方四万十道路（黒潮大方 IC～四万十 IC 間 7.9km）は事業中です。

高知自動車道は、平成 20 年 7 月には川之江 JCT～高知 IC 間 57.7km が 4 車線化され、令和 3 年 2 月には高知 IC で高知東部自動車道と接続されており、時間短縮や定時性の確保、一般道路の渋滞緩和に効果を発揮するだけでなく、四国 8 の字ネットワークの一部として地域間の交流促進や地域活性化に貢献することが一層期待されています。

＜参考文献：四国地方整備局事業評価監視委員会資料、NEXCO 西日本資料など＞